

小學作文全書

文學社編纂

八

日本教育會館		
第三室		
三	九	三
冊	號	架
國		

K120.8
119c
8

文學社編纂

書中動植礦理化學地文經濟生  
理等八道回各專門博士或公學  
士校訂 鮮爲假名遣生是正

小學作文全書

全六十冊

文學社刊行

小學作文全書卷之八上目次

四十題

記事文之部

學問	農	京都	兔	枇杷	兄弟	商	金剛
山	鷹	菊	大坂	鶯	西瓜	富士山	鸚鵡
茄子	大井川	孔雀	桐	東京	鰐魚	松	
利根川	鯛	芭蕉	琵琶湖	蠶	百合	蒸氣	
車	蒸氣船	從順	書籍	赤道	嶋	火山	
馬	猫	草	棉	橙	薔薇		

小學作文全書卷之八上目次終

小學作文全書卷之八上

文學社編纂

記事文

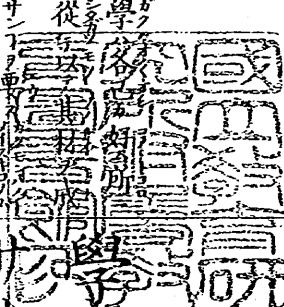
教則綱領前續  
修身、讀書、日本地理、  
動物、植物等

第一

學問

從<sup>ガク</sup>學<sup>ガク</sup>問<sup>ガク</sup>ハ人ノ一日モナクハ有ルヘカラ  
修メ之ヲ大ニシテハ國家ノ用ヲナス

問ハ人ノ一日モナクハ有ルヘカラ  
修メ之ヲ大ニシテハ國家ノ用ヲナス



ル者ハ速成ヲ要スル

小學作文全書卷之八上

コト勿シ カタモシキニシテ  
コトカク コトカク  
コトカク コトカク  
コトカク コトカク

### 農

職ヤ シヨク 農公世上ヲ富賸  
セムル要具ナリ エウツク  
ナカトミヤノ物産ナ  
ルタイセトモノ  
アツ豊饒ヨシキル土  
地ノ肥瘠ヨシク

山城桓武帝平安  
城トシテ街衢齊整  
行ケル人家稠密ニ

道ナリ、

農ハ穀菜ヲ生スルヲ職トス、穀菜ハ人  
ヲ養フニ欠クヘカラサル者ナリ、故ニ  
農タルモノ、天ノ時ニ從ヒ、地ノ宜シキ  
ヲ視テ、四時ノ勤ヲ怠ルヘカラス、

### 京都

京都ハ山城國ニ在リ、桓武帝都ヲ此ノ  
地ニ移シテ、平安城ト稱シ給ヘリ、今尚

三府ノ一タリ、其ノ街衢齊整ニシテ、人  
家稠密、山水秀美ナリ、

### 兔

兔ハ、缺唇ニシテ長鬚アリ、後脚長クシ  
テ能ク走ル、鼻聽甚敏聰ナリ、其ノ毛ハ、  
以テ筆ニ製スヘク、其ノ肉ハ、以テ食用  
ニ供ス可シ、

### 第二

### 枇杷

缺唇 ケツレン 長鬚 チガシユ  
後脚 コウキョク 耳 ミミ 頭 カビラ  
ヨリ長ク行走 ナカトミヤノ物産ナ  
カクシノ カタモシキニシテ 快速 コウソク 上 ウヘ 視 シ  
感 カン 鈍 ドブ 臭 ニホ  
聽 ナリ 兩 ナリ 感 ニ 最 ナリ 敏 ニ 聰 ニ

山水秀美 カクシノ  
佳 ナリ 風色 ニ 絶 ニ 佳 ニ 上 ニ



金剛山コングラセシ山脈セシ岐捕公ノ城趾キツノシニシテ其ノ山脈二派ニ岐レ一ハ千窟トナリ一ハ信貴ニ上ノ諸山ト爲ル此ノ山ハ往昔楠正成ハ據リテ賊軍ヲ挫キシ所ナルヲ以テ其ノ名著シ

鷹トビ執鳥トビ鷹鳥トビノ一ニシテ性甚猛久目銳ク爪利シ他鳥ヲ搏チテ食トス故二人之ヲ飼馴シ放チテ野禽ヲ搏セシメテ以テ玩樂トス其ノ類多クシテ大鷹隼等四十八鷹アリト云フ

鷹

金剛山ハ河内ノ東南隅ニ峙テル高山ニシテ其ノ山脈二派ニ岐レ一ハ千窟トナリ一ハ信貴ニ上ノ諸山ト爲ル此ノ山ハ往昔楠正成ハ據リテ賊軍ヲ挫キシ所ナルヲ以テ其ノ名著シ

鷹隼トビ飼馴トビ上玩樂トビ大鷹隼

獨衆芳ニ後レ能ク霜ヲ冒シテ花ヲ開キ幽香ヲ吐ク者ハ菊ナリ故ニ古人評シテ花ノ隱逸ナル者ト謂ヒテ頗之ヲ愛玩セリ其ノ色ニ黃白赤等ノ各種アリ一種夏菊ト稱スル者アリ夏月花開ク

菊

大坂

大坂

浪速仁德帝都趾  
大坂城ハ豊  
臣氏ノ建築ニ世  
レリ天滿住吉生王  
高津座摩等ナリ  
殷富ハ運輸便利  
ニモツモチハソビ百貨  
ヲサウ  
輻湊ガアワル

嘴端直鬚ニ子ナリ  
飛翔短小ハ羽  
鳴聲嬌朗ナリ  
現皖トシテ常ニ昆

大坂ハ三府ノ一ニシテ古ハ浪速ト稱  
セリ仁德帝ノ都址タリ北ニ天滿ノ天  
神社アリ南ニ住吉ノ神社アリ其ノ殷  
富東京ニア久運輸便利ニシテ百貨輻  
湊スル處ナリ

鶯

鶯ハ小鳥ナリ巢ヲ藪林ニ構ヘ常ニ山  
谷ニ飛翔ス春花將ニ開カントスル  
幽谷ヨリ出テ花間ニ嬌鳴ス其ノ音

虫ノ食餌トス  
卓絶シ美澤

現皖トシテ衆鳥ニ卓絶ス毛色倉黄ニ  
シテ美澤アリ

西瓜

果熟ハ赤色多液  
盛夏ニ食スハ清  
涼ニ多食スハ衛  
生上ニ害アリ

西瓜ハ其ノ花冬瓜ノ如ク黄色ナリ盛  
夏ノ候ニ熟ス其ノ肉赤色或ハ淡紅色  
ニシテ液汁多シ寒水ニ浸シテ之ヲ喫  
スレハ其ノ味甘美ニシテ且清涼ナリ  
暑ヲ避ルニハ最好果ナリ

富士山





遠江東海道著名  
川流急駛カ  
釘浦行旅  
旅客ノ此渡場ヲ  
過ルニ臨ミテ  
貴客ハ連臺  
ニ坐シ賤夫ハ驛夫  
肩上ニ跨ス  
孔雀熱帶地方ノ  
産鳥ナリ。頭ニ花  
冠ヲ戴キ  
顧眄シテ  
尾端ニ至ル迄五

彩ノ田紋ヲ  
振装

成木甚速ナリ。總  
房花トシテ。材質  
柔軟ナリ。秋季ニ  
至ルニ葉飛落シ  
テ以テ之ヲ報ス  
木  
理正直ナルニ  
最適ス

大井川ハ遠江國ニアリテ東海道著名  
ノ急流ナリ駿河ヨリ來リ釘浦ニ至リ  
テ海ニ注久往日行旅ノ此ノ川ヲ過ル  
者ハ連臺ニ坐シ或ハ人夫ノ肩ニ跨シ  
テ渡リシカ今ハ架スルニ橋梁ヲ以テセリ  
孔雀

孔雀ハ船來ノ鳥ニシテ花冠アリ又錦  
毛ノ其ノ軀幹ヨリ長キ尾ヲ有ス時ニ  
顧眄シテ自其ノ羽毛ノ美麗ナルニ誇  
ルモノ、如シ又好ミテ翼ヲ振ヒテ裝  
ヲナセリ、

桐

桐ハ春末ニ帶紫白花ノ總房花ヲ開ク  
其ノ材質ハ柔軟ニシテ輕シ以テ箆箆  
机案等ヲ造レハ濕氣ヲ惹クコト少シ其  
ノ中、木理正直ナルハ純美ニシテ、筐筥  
ヲ造ルニ最適ス

東京

開府カクフ維新イシン官衙カンガ建築ケンチク皆高ミタカシ壯サカシ市街シカゲ繁榮ハンエイ駭ハヤシ市街シカゲ繁榮ハンエイ商業コウギョウ熾昌シキョウ行人コウジン雜沓ソクソク車馬クルマ往復ウキウキ道路ダウロウ整潔セイセツ

鱈魚カクギョ獯惡ソウイ形カタ態カタ蜥蜴シキ似ニ多オホシ我ワ獸類ジュウライ攫食ケツシキススカクモカクモ川カハ艇テイ覆没フクボツススカクモカクモ川カハ艇テイ

東京ハ舊江戸ト稱セリ、徳川氏開府ノ地ニシテ、維新以來帝京トナレリ、皇居中央ニ位シ、市街繁榮ニシテ、官衙盛大目ヲ駭スニ足ル、其ノ商業ノ熾昌、行人ノ雜沓スル筆紙ノ能ク盡ス所ニアラス、

鱈魚

鱈魚ハ多ク熱帶地方ニ産ス、性獯惡ナリ、其ノ大ナル者ハ、二丈ヨリ三丈ニ達ス、常ニ水涯ノ叢藪中ニ潜居シ、能ク獸

鱈魚カクギョ潛居センキョ嗜シ

類ノ通過スルヲ窺ヒ、一搏シテ攫食シ、或ハ逼リテ人ヲ噬フト云ス

松

老幹ラウカン雲表ウンヒョウ聳ソウ其ノ皮ハ龍鱗リョウリンノ如ク、其ノ葉ハ青々、四時ヲ經テ色變セス、能ク歲寒ニ耐フルヲ以テ、之ヲ君子ノ貞操アルニ比シ、又人ノ長壽ヲ保ツニ喩ス

利根川

利根川

巨流 武藏下總ノ境  
利根 野ノ利根郡藤原  
村ノ支流 文珠嶽小流  
松ノ往復ニテ 船  
容又ハ 荷物ノ便  
ニ供ス

狀貌端麗  
赤鱗ノ鮮色ノルヲ  
以テ一名ヲ 紅魚ト  
モ稱ス

利根川ハ武藏ニ在ル巨流ニシテ、寔ニ  
日本三大川ノ一タリ、上野ヨリ來テ兩  
派トナリ、正流ハ下總ニ入り、支流ハ南  
ニ赴キテ内海ニ入ル、船舶ノ往來自由  
ニシテ、東京運輸ノ便ヲ助ルコト多シ、

鯛

鯛ハ赤鱗ニシテ、其ノ狀貌端麗ナリ、四  
時共ニ膏腴粘重ナラスシテ、味最美ナ  
リ、故ニ海魚中最上ニ位ス、形ノ相似タ  
ルヲ以テ、其ノ名ヲ冒ス、魚類數十種ア  
レトモ、風味ハ遠ク及ハス、

芭蕉

芭蕉 薑此花ハ老  
根ニアラザレバ、容易ニ  
生出セザレモ、ナリ、葉  
際ヨリ幽芳ヲ生ズ  
全クハヨリ、脆弱トシ、煖  
帯地方ニ産スルモ  
ノナリト云フ

芭蕉ハ莖葉共ニ薑ニ似テ、其ノ高一丈  
乃至一丈五六尺ニ至ル、庭砌ニ植エテ  
觀ニ供スルニ足ル、其ノ葉ハ脆弱ニシ  
テ破レ易シ、其ノ纖維ヲ以テ織レル布  
ヲ芭蕉布ト云フ、琉球國ノ名産ナリ、

琵琶湖

湖岸ニ港灣頗多  
天津ハ南岸ニ  
位ス。早崎。長濱。  
海津等風景絶美  
如シ。瀨田ノ長橋。

卵生ノ蠶ヲカヘ。  
桑柘ノ軟葉ヲ餌  
トス。民益ヲ  
為ス。鮮少ナラサ  
ルナリ。

琵琶湖ハ近江國ノ中央ニ在リ、其ノ周  
圍七十三里餘、我カ國第一ノ大湖ナリ、  
風景絶美ニシテ、所謂近江八景アリ、湖  
中ニ奥沖多氣竹生ノ四島アリ、湖形琵琶  
ニ似タリ、故ニ琵琶湖ト名ク、

蠶

蠶ハ卵生ノ蟲ナリ、春繭スルヲ春蠶ト  
云ヒ、夏繭スルヲ夏蠶ト云フ、桑葉ヲ以  
テ餌トス、繭ハ其ノ作ル所ノ巢ニシテ、

繭ヨリ絲ヲ製出  
ス。マカラス。

絹絲ハ皆之ヨリ抽ケルモノナリ、小蟲  
ト雖、氏人間ノ用ヲ成ス、一巨大ナリ、

百合

百合ハ白色ニ  
シテ傘形ヲナセリ。  
四時ノ食用ニ供  
ス。ニ適ス。ヨロシイ。味  
ニ淡泊ナリ。根塊ハ恰モ蓮花ノ  
如シ。

百合ハ山野ニ生シテ、夏時ニ花ヲ開ク、  
白色ニ紫點アルモノト、淡紅ニ赤點アル  
モノトアリ、其ノ小ナルヲ姫百合ト  
云ヒ、大ナル者ヲ雄百合ト云フ、其ノ根  
ハ、白色ニシテ鱗狀ヲナセリ、

蒸氣車

快駛ヨリ速シ疾駛  
今トテハ  
上ノ飛鳥ヨリ速ナリ  
百足瞬間ハイダノ  
却行ナリ危険ヲ  
敬シムヲアケル

風ノ順逆カニ  
列國ヲ周遊スルニ  
利ナリ  
山川ノ各様ナリ  
間ニ幾風色ヲ呈ス

汽車ハ蒸氣ノ力ヲ以テ鐵道ヲ疾駛ス  
ル車ナリ其ノ狀百足ノ走ルニ似タリ  
又其ノ窓ヨリ望メハ山川迎ヘ來リテ  
瞬間ニ容ヲ改メ觀ヲ變シ且旅人飛鳥  
ハ却行スルカ如シ

蒸氣船

蒸氣船ハ蒸氣ノ力ニ資リテ行ル船ナ  
リ故ニ風ノ順逆ニ關セス波濤ヲ截チ  
テ直チニ進行ス其ノ勢鯨鯢ノ馳スル  
ニ似タリ駛過ノ速ナル萬里ノ水程モ  
日ナラスシテ達スルコトヲ得ヘシ

課題

- 從順 書籍 赤道 嶋 火山 馬
- 猫 草 棉 橙 薔薇

山東ノ  
客ハ忽チ山西ノ人  
トナル

菱潭書

小學作文全書卷之八上終

小學作文全書卷之八下目次

四十題

日用書類之部附諸券公用文

- 器械の賣捌を記す文
- 借入おと内不足を記す文
- 借入金の返済を告ぐる文
- 経理後同店を報告する文
- 運送物入金を報告する文
- 入札を出さざるを報告する文
- 忘れた物を取り戻す文
- 洋字帳簿を勧むる文
- 虫の毒を聴ふ友を誘ふ文
- 轉物より手紙を記す文
- 日記をまとめて出荷を候する文
- 運送する友を誘ふ文
- 木材報告の文
- 同区より送り物を催便する文
- 國へ物を入る文
- 架を贈る文



先日の過日に出発  
後途に依託  
依託論議  
探偵上目  
現今拵底  
品切何今一寸  
鳥渡

小生過生知  
出郷後國  
出途萬事  
諸事用辨  
引延延延  
歸郷後國  
夫迄後而取扱

拙者方生不  
幸不運上類  
以火難差向  
當仮住借僑居  
便利家宅

よき望人も世に於て古に數あるら  
由知らせ下され後法殿教上當也

○任文不内不足を對る文

先日出發の言に依託に成る物  
之内何事丈所と論議致し  
目下拵底之由も何分も入中  
さば依りて在一寸中當也

○歸國延引を告ぐる文

小生候出郷之初も本月初迄は積  
りて萬事を為合致置る事用辨  
延引奉月古より六箇月も  
夫迄も又總て百布中取扱也

○類焼後同居を報する文

拙者候此夜不幸にして類焼罹り  
差向仮住すへき便利の家宅これ  
片付一先何所何番地何程方へ



同居トウキョ

過日カゲニツ 注生チュウセイ 日ニツ 忌イミ  
日ニツ 注文チュウモン 逃ニゲ 格カク  
別ワケ 別段ワケダニ 相境サウキョウ 高タカ  
價カネ 高直タカナキ 一イチ 時トキ  
暫サマシ 時トキ 見合ミアヒ

拙店シツテン 雇入コウイリ 何程ナニトシ 係ケイ 世度セド

幣塵ヘイジン 不都合フツゴウ 不フ  
束スベ 不持フチ 不始フシ 未ミ 以イ  
来符ライフ 示後シゴ 自今ジイマ  
取合クワヒ 由差ユサ 構カマ 採サイ  
用ヨウ 利リ 井イ

祖父ソウフ 死シ 去キ 病ヤマト  
死シ 捐世ケンセ 贈儀クダヒ  
奠儀マシヒ 贈クダ 贈クダ 香カウ  
花料ハナリウ 由厚ユウコウ 情ナマシ  
由厚ユウコウ 謹キン 泰タイ 忌明イミアカク  
由厚ユウコウ 礼レイ 鳴謝メイシャ  
由厚ユウコウ 拜謝ハイシャ

同居いたし右迄志せし中と云也

○運送物見合を報する文

過日注生文中に當紙款之内片

思建紙格外にお揃引し重先達

より凡二刻餘高價と申成由付

一時是見合下さるべく也

○人小帳を出したるを報する文

拙店雇入何程係世度

不都合儀これあり本月何の帳

差出下し来右者何等申出さし決

して由合下さる旨申上り當也

○忌明付禮の文

先づ祖父死去し初ま由町寧に由禮

係束下さり由厚謹に程系と存

今より忌明の付は股書中を以て

由厚禮申上り不

由厚禮申上り不







ハ多敷一管由子供  
衆舒進上付。呈  
上。上。

ゴフ達書付。飛  
急物要。件。件。選  
滞。滞。滞。滞。滞。  
ハ。順。順。順。順。順。  
添。到。未。時。性。性。領  
掌。掌。掌。掌。掌。

長門熟果の純事もこの世の  
百多の事の中を梨申りて少  
分出るるは純事の子供も  
よ及の事の中

○布達書不添字文

此布達書玉急の件付願進  
浦若く順進致す事極口状在添  
系束致し各印書下中の性に

古領書より古順進案よりく  
己之

○煙火足物招かれ一區子

西洋法は相火試夜のは煙火これ  
あるものし古招に頼り五難く  
論は後ひお族引連進進業者修く  
意茶の古答應候く所不進在は右  
由返りしと事一也

西洋法は相火打揚由  
催由龍招轉尊諭  
其責諭は家族奉  
家引引連相携は  
本堂の煎茶由興  
應候



証券印稅略則  
續  
一金高記載  
ル諸般ノ契

約書  
金高壹田以上  
貳拾田未滿

印稅壹錢  
全貳拾田以上  
五拾田未滿

全貳錢  
全五拾田以上

百田未滿  
全四錢  
全百田以上  
百五拾田未滿

全六錢  
全百五拾田以上  
貳百田未滿

全八錢  
全貳百田以上  
三百田未滿

全拾壹錢  
全三百田以上

全三百田以上

是此書黃信下之札及法股中之公  
部

### 諸券公用文

#### ○轉居法屆

何郡何村何番地

何之誰  
外何人

右之段何郡何村何番地轉居法

百戶籍面由記載替束下甘レ度法

段法届ノ旨也

年月日  
何之誰 (印)

何郡長又何村戶長何之誰殿  
以下同宛名之届書ハ記名ヲ略ス

#### ○寄留人法届

何郡何村何番地  
族籍何之誰才全當

原籍何籍何圖何郡何村何番地  
族籍

四百田未滿  
全拾四錢  
全四百田以上  
六百田未滿  
全貳拾錢  
全六百田以上  
八百田未滿  
全貳拾六錢  
全八百田以上  
千百田未滿  
全三拾貳錢  
全千百田以上

千四百田未滿  
全三拾八錢  
全千四百田以上  
千七百田未滿  
全四拾四錢  
全千七百田以上  
貳千田未滿  
全五拾錢  
全貳千田以上  
貳千五百田未滿  
全六拾錢  
全貳千五百田以上

右邊屬<sup>シ</sup>之也

年月日

何<sup>シ</sup>之誰<sup>ニ</sup>  
年月日

何<sup>シ</sup>之誰<sup>ニ</sup>  
印

止宿人<sup>シ</sup>邊屬<sup>ニ</sup>

何<sup>シ</sup>郡何<sup>ニ</sup>村何<sup>ニ</sup>番地  
系籍何<sup>ニ</sup>郡何<sup>ニ</sup>國何<sup>ニ</sup>郡何<sup>ニ</sup>番地  
族籍

何<sup>シ</sup>之誰<sup>ニ</sup>  
年月日

年月日

右前記<sup>シ</sup>者止宿<sup>シ</sup>致<sup>シ</sup>廿七<sup>日</sup>也

右邊屬<sup>シ</sup>之也

何<sup>シ</sup>之誰<sup>ニ</sup>  
印

○車<sup>ニ</sup>邊屬<sup>シ</sup>願<sup>ス</sup>

何<sup>シ</sup>郡何<sup>ニ</sup>村何<sup>ニ</sup>番地  
族籍

何<sup>シ</sup>之誰<sup>ニ</sup>

一何車<sup>ニ</sup>何<sup>ニ</sup>籍

右車<sup>ニ</sup>新<sup>ニ</sup>調<sup>シ</sup>信<sup>シ</sup>官<sup>ニ</sup>邊屬<sup>シ</sup>致<sup>シ</sup>廿七<sup>日</sup>也

何<sup>シ</sup>之誰<sup>ニ</sup>  
印

年月日





一 質物預小札  
 右ハ金高壹田  
 以上貳拾田未  
 滿  
 印稅壹錢  
 金高貳拾田以  
 上  
 印稅貳錢  
 右諸証書ヲ通  
 帳ト為ス片ハ  
 其附込見積金  
 高ニ隨ヒ下ニ

定ル所ノ印紙  
 ヲ貼用スヘシ  
 金高百田未滿  
 印稅貳錢  
 金高百田以上  
 全四錢  
 一 為替手形  
 一 荷為替手形  
 一 約束手形  
 金高五拾田未  
 滿  
 印稅一錢

何之誰殿 以下記名ヲ略ス

○送り状 スレク

一何品 何個

蒸或ハ滿紙色但モ個目方何數目此代價何百何拾圓也

右、海船何丸ヲ以テ差出ル旨到者之上  
通運會社

右改定査収下サレハクモ也

年月日 何之誰印

○荷物預り証

一何品 何個

海船或ハ蒸但モ個目方幾何

右、海船何丸ヨリシ差出ル旨何之誰殿  
通運會社

因リ来何日と當社倉庫中へ預リ

置ル旨と書キ也 及ヒシ為預リ証書

件之如クも也

年月日 何之誰印

課題

停車場にて待合の事を中絶す文○同返  
 事○急に用候ありて親類を招く文○同返

小學作文全書卷之八下

全百回未滿  
全貳錢  
全貳百回未滿  
全四錢  
全五百回未滿  
全八錢  
全千回未滿  
全拾五錢  
全貳千回未滿  
全貳拾五錢  
全貳千回以上  
全五拾錢

辭○棟上を祝せられしに答ふ文○書き  
物を依頼する文○遊山を約束する文○紀元  
首に友を招く文○同返辭○繁衆の村  
人を雇ふ文

著 原 五  
[印]

小學作文全書卷之八下終

明治十六年四月十日 版權免許  
同 十六年十二月二十五日 校正御届  
同 二十年六月二十八日 再版御届



編纂無  
出版

文學社

東京日本橋區本町  
四丁目十六番地

定價 拾貳錢